

# テスト設計コンテスト'14

## アピールシート

※ 全体でA4縦1ページに収まるように記述してください。

地域名 東京

チームID S130717001

チーム名 Shelly

### チーム紹介

【メンバー】 蛭田 恭章/山尾 直弘/相馬 武/谷崎 浩一/加藤 孝也/中島 竜史/真板 由香

【チーム名の由来】 シンガポール空港で出会ったカメのぬいぐるみの名前から。以来、チームのマスコット。

【テスト歴】 第三者検証業務として 2~11 年の経験。主に組み込み系ソフトウェアの検証を担当。本コンテストには昨年に引き続き 2 回目の挑戦。

【チームのコンセプト】 「Standing on the shoulders of giants」をコンセプトとしている。先人たちの膨大な知識の上に積み上げることで学術の発展に貢献することができるという意味の、アイザック・ニュートンが好んで使っていたことで有名な慣用句。つまり、ソフトウェアテストの基礎・基本をしっかりとおさえ、そのうえで新たな考えや手法を見出すということを念頭において活動している。

### コンセプト

コンセプトは「思いやりのテストづくり」。背景としては、「良いテスト」を考える際に「人」が重要な要素であることに気付き、さまざまな立場の「人」を意識したテスト設計を考えることとした。

テスト要求分析では色々な人の思いを汲んだテストアプローチを目指した。テストアーキテクチャ設計では3つのアーキテクチャ(テスト分析アーキテクチャ: 思考の視点、テスト仕様アーキテクチャ: 作成の視点、テストマッピングアーキテクチャ: 実行の視点)を検討した。

### 工夫点

#### ■テスト要求分析の工夫点

・プロセスとしては、「洗い出す」ためと、「膨らます/詰める」ためのアクティビティとを明確にし、1次分析と2次分析に分けて検討したこと。

・1次分析では、「テスター関係表」でテスト対象にすべての人がテストチームの人にどのような想い(要求)を持っているかを検討した。2次分析における分析的アプローチでは、機能の実現形態(入出力)に由来する脆弱性を分析することで、脆弱な部分(=不具合が発生しやすい部分)を狙うテストを導き出した。

#### ■テストアーキテクチャ設計の工夫点

・3つのアーキテクチャ(テスト分析アーキテクチャ: 思考の視点、テスト仕様アーキテクチャ: 作成の視点、テストマッピングアーキテクチャ: 実行の視点)に用途別、利用者別に分けて検討したこと。

#### ■テスト詳細設計/テスト実装の工夫点

・テストケースへの変換が複雑なものはテスト技法を用いて明確にテスト条件を指定したこと。

・テストケース作成を容易にするため、「期待動作」や「確認方法」についてガイドしたこと。